# ９．編　集　後　記

山口大学環境保全第２１号では、５第目のセンター長に就任された右田先生に、「排水処理センターの来し方と今後のあり方」という題の示唆に富んだ巻頭言を書いて頂きました。２００４年度からの大学法人化により排水処理に対する大学の社会的責任は重くなり、排水処理センターの役割と責任はますます大きくなっています。財政問題等、難しい点も多いとは思いますが、排水処理センターがさらに充実・発展することを期待します。

特集としては、山口大学の労働安全衛生対策について、保健管理センター長、各事業所の専任衛生管理者、安全衛生対策室長、施設環境部長という、安全衛生対策の第一線でご活躍されている教職員の方々に書いて頂きました。お陰様で、大学法人化に伴って必要となった様々な施策や組織の変更、現在の取り組みや今後の課題等、全体像の把握にも具体的な事例の把握にも役立つ特集となりました。

解説、話題等では、海洋環境や蝶といった生物の話題、自然の権利、地中環境と異常気象、環境問題解決のためのシステム、病理部の対策といった多彩な分野から、それぞれ奥深く思わず読み耽ってしまう原稿をお寄せ頂きました。

今年も最近になって、アスベストによる中脾腫、女子高生によるタリウム事件、ビルの耐震強度に関する構造計算書偽造事件、鳥インフルエンザ問題、中国吉林省の化学工場爆発でベンゼンなど約100トンがアムール川支流に流出した事故など、化学物質や労働安全衛生に関わる大きな事件事故のニュースが相次ぎました。事件事故防止や安全衛生の確保のためには、大学内の安全衛生対策、危機管理体制等の充実に加え、大学の構成員である教職員や学生一人一人の自覚･意識が欠かせません。本号がそのお役にたてれば幸いです

終わりに、ご多忙中に原稿を執筆いただいた教職員及び卒業生、また編集に多大な貢献をいただいた排水処理センターの右田先生、藤原先生に深く感謝いたします。

平成１７年１１月２８日

編集委員長　　和泉研二